

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○個別学習と協働学習の連関を促進する「デジタル知の総合化ノート」の活用

西井川学校  
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
---------	----

校長

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

(1)知識・技能の習得

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた学習にはきちんと取り組んでおり、基本的な力が定着してきている。 ●自分から進んで知識や技能を習得しようとする意識が低い。	・自らの課題を意識し、目標を立てることができる。 ・基礎的・基本的な学習内容を確実に習得し、発展的な問題を解くことができる。	・「デジタル知の総合化ノート」を活用し、自らの課題を意識化させ、目標を立てることで、知識技能を習得させる。 ・「はかせタイム(朝の活動の時間)」にタブレット端末等を活用し、自分に足りない知識や技能の習得に取り組ませる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表する楽しさを感じ得る児童が増えてきている。 ●自分の考えを表現する力が不十分である。	・学びを振り返り、整理することができる。 ・学びを振り返り、目的意識や相手意識をもって、わかりやすく伝えることができる。 ・学んだことを他教科や生活場面で活かすことができる。	・「デジタル知の総合化ノート」を活用し、自らの学びを他者にわかりやすく伝える機会を効果的に設定する。 ・自らの学びをもとにして、協働的な学びに生かすことができるようにする。 ・ICT 機器を効果的に活用する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○出された課題には、きちんと取り組んでおり、家庭学習の提出も多くの児童ができています。 ●自分の課題を認識して、主体的に取り組むことができていない。 ●読書量が十分でない。	・自らの課題を認識し、学ばなければならないことに対して、主体的に取り組むことができる。 ・本に親しみ、進んで読書をしようとすることができる。	・「デジタル知の総合化ノート」をもとに、自分に合った学習を認識し、主体的に取り組めるよう、アドバイスをを行う。 ・月1回の「読書の日」を設定し、自ら選書した本を持ち帰り、家庭学習としてしっかり読書をする時間を確保する。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

